

医療系大学生の臓器提供に関する意思と死生観との関連

—家族の臓器を提供する場合の意思に注目して—

和泉佑和子 伊藤成美 山口果南 旭川医科大学医学部看護学科

背景

- 2010年の改正臓器移植法の施行により、本人の臓器提供意思が不明な場合でも**家族の承諾により臓器提供が可能**
- 臓器提供の意思表示率が低い(平成29年度臓器移植に関する世論調査)
- 臓器提供されたケースのうち約8割が**家族の承諾によるもの**(日本臓器移植ネットワーク)

提供者本人の意思を確認できない状況下で臓器提供の可否の決断を迫られる**家族の精神的負担はかなり大きい**

- アメリカでは「脳死は人の死」という考え方が浸透しているためほとんどが脳死後の臓器提供であるが、**日本は欧米諸国と比較して脳死後の臓器移植が少ない**(日本臓器移植ネットワーク)
- 先行研究では、**脳死を死と捉えるか**には**各人の死生観が反映**していることが明らかにされている

死生観が臓器提供の意思に与える影響は大きい

目的

臓器提供は家族による承諾が多いという点に着目し、家族が脳死と宣告された場合、家族の臓器提供承諾にどのような要因が影響しているのか、医療系大学生の意思とその関連要因を明らかにする

臓器提供意思の影響要因を明らかにすることで、今後の医療現場において、臓器提供の有無の決断を迫られた**家族へのケアの一助**とすることにつながるのではないかと

対象

Q医科大学医学部医学科・看護学科1~4学年
(医学科: 約480名・看護学科: 約240名)

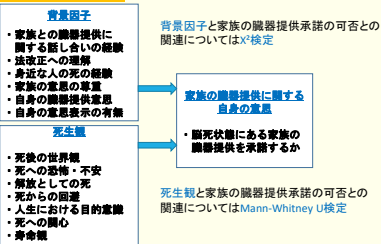
方法

無記名自記式質問紙を用いて集合法で調査し、質問紙は講義室内に設置した回収ボックスにて回収

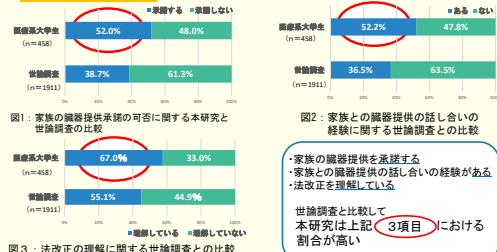
倫理的配慮

旭川医科大学倫理委員会の承認を得て実施(承認番号19064)
対象者には質問紙の提出をもって同意を得た
質問紙は無記名で個人が特定されることはないこと、協力は任意で協力の拒否による不利益はないことを文書及び口頭で説明

概念枠組みおよび分析方法



結果および考察



研究対象は医療系大学生であり、講義等で人の理解や命について学び、臓器移植に触れる機会があるため、臓器移植への関心が高い

集団の特性が反映している

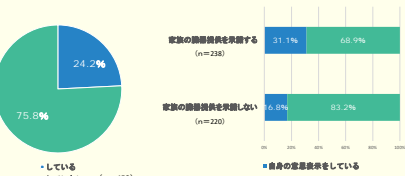


図5: 家族の臓器提供承諾の可否と自身の意思表示との関連

自身の臓器提供意思表示をしている人ほど、家族の臓器提供を承諾するという傾向が見られた

自身の意思表示が家族の臓器提供承諾の可否の決定に影響している

意思表示をしていない理由で最も多かったものは「**自分の意思が決まらないから、あるいは後で記入しようと思っていたから**」であった(135名)

意思表示を行動化するには壁があるのではないかと推測する

臨老式死生観尺度の各項目の質問例

- 死後の世界観**
 - 世の中には「霊」や「たたり」があると思う
 - 人は死後、また生まれ変わると思う
- 死への恐怖・不安**
 - 死ぬことがこわい
 - 自分が死ぬことを考えると、不安になる
- 解放としての死**
 - 死は痛みと苦しみからの解放である
 - 死は魂の解放をもたらしてくれる
- 死からの回避**
 - どんなことをしても死を避けたらいい
 - 死は恐ろしいのであまり考えないようにしている
- 人生の目的意識**
 - 私は人生にははっきりとした使命と目的を見出している
 - 未来は明るい
- 死への関心**
 - 自分の死については考えることがよくある
 - 家族や友人と死についてよく話す
- 寿命観**
 - 寿命は最初から決まっていると思う
 - 人の生死は目に見えない力(運命・神など)によって決められている

- 臨老式死生観尺度の各項目は7件法で回答
- 最高28点から最低4点で平均値16点(どちらもいえない)を基準に得点が高いほどその傾向が強いことを示す
- ただし、7. 寿命観については12点(どちらもいえない)を基準として平均値を捉え傾向の強さを見る

表1: 全体の死生観各項目の平均値

死生観	全体の平均値 (n=458)
死後の世界観	15.6
死への恐怖・不安	17.5
解放としての死	12.3
死からの回避	11.0
人生の目的意識	16.5
死への関心	16.0
寿命観	9.5

死への恐怖不安の平均値 >16点
→傾向が強い

表2: 死後の世界観と家族の臓器提供承諾の可否

死後の世界観	家族の臓器提供(数)	平均値±SD	有意確率
承諾する (n=238)	承諾しない (n=220)	16.3±6.02	p=0.048*
	承諾する (n=238)	15.0±7.20	
死への恐怖・不安 承諾しない (n=220)	承諾しない (n=220)	18.2±6.35	p=0.063
	承諾する (n=238)	16.9±6.72	

Mann-Whitney U検定

家族の臓器提供を承諾しない群(16.3点): 家族の臓器提供を承諾する群(15.0点)と比較してやや霊的な考え方(魂や生まれ変わりなど)が強い傾向がある

臓器を提供することで、家族が死後の世界で何らかの影響があるという考えから臓器提供に否定的になるのではないかと

結論

- 意思表示がない場合の家族の臓器提供の承諾に関連する要因
- 自己の臓器提供の意思表示
- 家族の意思尊重
- 死生観(死後の世界観)

今後の課題

本研究は一施設での実施であり、対象者が医学生・看護学生に限定されているため一般化できるとは言いえない

今後、対象を拡大したさらなる調査の必要性

平成29年 内閣府 臓器提供に関する世論調査

調査対象

全国18歳以上の日本国籍を有するもの3000人
(層化2段無作為抽出法)

有効回収数

1911人

調査項目

臓器移植制度についての関心、臓器提供に関する家族との共有、臓器提供に対する意識、臓器移植に関する情報

